高津区おはなしアーカイブ

●戸張　晶康（とばり　やすひろ）さん
昭和１５年生まれ　７３歳
川崎市高津区諏訪在住

◆ご自身のプロフィールを

生まれも育ちも北見方です。北見方では、町内会顧問、民生委員を務めました。

昭和２１年高津小学校に入学しました。当時は二宮金次郎の像が立っていましたね。ここからは学校までは、歩いて４０分かかりました。特に集団登校もなく、兄弟でブラブラ登校しました。４年生のときに新しくできた東高津小学校に転校しました。校舎の裏門が開いていたので、歩いて１０分で行けました。

中学は高津中学です。運動では、短距離走が早かったです。時間を忘れて遊んでいると、先生から「ずっと遊んでいろ！」と連帯責任で皆、ビンタされました。

県立多摩高校に進み、工学院大学機械科に入学しました。大学が新宿にあり、よくマージャンをしました。就職先は、システムキッチンで有名なサンウエーブという会社です。出向先の会社で定年を迎え、６０歳からは梨作りです。

不思議なことに、東高津小学校、高津中学も新校舎、多摩高校も1期生、サンウエーブも新規入社というすべてが新しい尽くめの人生でした。

◆小学校時代の思い出は

小学校では先生からビンタされるなんて毎日のことでした。それをもし親に言いつけたら、またビンタですから、もちろん黙っていましたよ(笑)。

昼食は、弁当に麦飯を持っていったのを覚えています。母が麦と米を混ぜて炊くのですが、米より軽い麦が上の層になって炊き上がります。それを、母が下の方の白米の部分をわざわざすくって、詰めてくれました。その後、給食になり、コッペパンや脱脂粉乳や鯨の肉が出ました。

冬は今よりも、もっと寒くて雪が降り、１m近く積もったでしょうか、雪遊びをしましたねえ。庭で芋を焼いて、焼き芋をかじりながら登校しました。

◆当時の子どもの遊びは

小さなときから、梨畑で遊んでいました。でも、昭和３７年頃、オリンピックのために第三京浜道路ができたのと、相続税対策で梨畑はどんどん消えていきました。

二ヶ領用水ではよく泳ぎました。１m５０㎝の川幅で、流れがとても早かったです。高津小学校の頃は、朝は普通に歩いて登校するのですが、帰りは1人がカバン持ちになり、皆で泳いで帰りました（笑）。当時は、皆がつけていた赤フンで早く泳ぎたくてねえ。

旧二ヶ領用水を「古い川」、新二ヶ領用水を「新しい川」と分けて言っていました。旧二ヶ領用水は、すでに道路になっていますが、昔はザリガニ、亀、食用カエルが獲れましたし、洗濯など生活用水としても使っていました。

◆特に多摩川の思い出はありますか

小学校6年生になると、水深２ｍのところで、フナやマルタという魚をモリで獲っていました。投網も使いました。まさに、子どもたちにとっては、魚獲り、水泳、水遊びと一番の遊び場でしたね。しかし、綺麗な多摩川も昭和４０年頃になると、通っただけで具合が悪くなって熱が出るくらい、汚染されていましたね。残念でした。でも、小さい頃はとにかく多摩川にはよく行きました。なんたって、家にいると「外に遊びに行け！」と怒られましたもの。現代の親たちは、自分の子どもの成長をどう考えているのかなあ。今の子は、梨を剥けない子も多いんですよ。

◆どんなご家族でしたか

私は、妹2人、弟2人の長男です。

昭和２０年4月１５日に、日本通信工業に焼夷弾が落ちて、その土地の４分の１が焼けた時、焼け出された親戚の５、６家族がうちに集まり、納屋に畳を敷いて、一緒に暮らしました。

子どもだけで、１０人はいました。私はここで社会性を学んだと思っています。当時は学校にガキ大将はいたのですが、うちはとにかく、子どもが多くて特にそういう存在を意識しなかったですね。

１０年くらい、皆で一緒に住んでいたので、いまだに従兄弟たちは、我が家を懐かしんで訪ねてくれます。さすがに、高校受験のときだけは、自分１人だけ別に住んで勉強しました。昔の古き良き時代の思い出ばかりです。

今の家は、納屋暮らしなどを経て、４回建て直しました。正福寺が戦争で焼けたときは、うちが持っていた材木を寄付したので、うちの建て替えが遅れたと聞いています。

私の両親、祖父母、曽祖父母は、とにかく朝から晩まで小作人なしで畑と梨の仕事で働き詰めでした。お盆も夏祭りの思い出もありません。正月だけは、村の人が獅子舞をやって、おせち料理を食べたことだけを覚えています。ひたすら親父が恐かったですねえ。そばにも寄れませんでしたもの。

農作業のときは、畑の下のところにムシロを敷いて、赤ちゃんを見守りながら、仕事をしていました。気がつくと、赤ちゃんが畑にひっくり返っていたこともあったようです。朝昼晩の食事は祖母がきちんと作ってくれました。夜は9時になったら皆、寝ていました。

◆当時の町の様子は

東部４部落といって、北見方、諏訪、下作延、坂戸がありました。北見方は「保守的」、諏訪は「利に聡い」などと特徴を言われていました。坂戸は、昔が信じられない程、今はマンションが建ち、開けていると思います。北見方と諏訪は地続きで、坂戸は橋を渡らないと行けなかったので、あまり交流がありませんでした。川幅が６ｍあったものが、暗渠になっているということを知っている人はもう少ないですね。

今、北見方にある「ポップコーン」というレストランの前の駐車場は昔、1軒しかない「赤松屋」

という商店でした。最初は小さな店がたくさん集まり、それからスーパーになりました。当時は、野菜は自給自足でしたし、麦やお茶は家に炉があったので、蒸して作りましたので、この店だけで十分でしたね。

北見方１丁目は梨畑、２、３丁目は田んぼや桃畑がありました。また、１丁目は地主さんが多く住んでいました。

私が小学校のときは、交通量も少なくて信号機もありませんでした。瀬田の市場まで行くのに、リヤカーで砂利道を上るのが大変で、後ろから押して手伝っても、「早く押せー！」と怒られました。溝の口市場はずっと後になってできました。商品は、物によって分けるのではなく、値段によって分けて売っていましたね。

あの頃は、自宅に鍵なんか掛けたりしません。大人たちは、近所中の子どもたちのことをよく知っていましたから、子どもたちは、梨や柿を自由にもいで食べていました。でも、悪いことをしたら、他人の子だろうが、叱られました。

◆サラリーマン時代のお話を

昭和３８年に群馬県桐生市のサンウエーブに入社しました。入社試験は２４０名が受けて、合格者８０名中の１人です。あとでわかったのですが、「試験のときは、成績より面接が良かった」と言われました。確か、野球が好きだったので、面接官と野球の話をしたことを覚えています。

当時は、桐生に８万坪の工場がありましたが３８年に倒産の憂き目に遭いました。しかし、台所にステンレスが使われ、住宅公団に採用されて、高度成長の波に乗り、シェアーが７５％まで伸びると会社更生法が解除になりました。当時のサンウエーブは新日鉄の孫会社で、親会社は日新製鋼です。

最初は、台所の水槽から始まり、それから調理台、コンロ、吊り戸棚とどんどんシステムキッチン化されていきました。商品開発から売値まで自分達で決めることができて、とてもやりがいがありました。かさばる商品だったので、倉庫代が大変だったのですが、コンピューターが生産管理できるようになって業績が上がり、株価が４００円から３０００円までに上昇しました。

平成元年、単身者用のシステムキッチンが売れましたが、バブルのときに一挙に落ち込み、埼玉県深谷市に工場を作りましたが、うまくいきませんでした。５６歳で、管理職定年制になり、リストラが大変でした。

一流会社から三流になるなど紆余曲折あった会社ですが、３年前に元・東洋サッシのリクシルと合併しました。

たまたま私は、レンジフードなどを作っている相模原にある富士工業に出向の形で６０歳まで勤めました。ここでは、今までの商品開発部門と違って、営業・接待係りになっていろいろなことを勉強しました。

最初は、相手の会社の人と飲むのが仕事で良かったのですが、毎晩では体がもたないし・・・。また、商品を買ってもらうのに、誰と一緒に飲むのが一番か、などと考えたりして、これもまた仕事として苦労がありました。

６０歳で退職したサラリーマン生活を振り返ると、本当に良い人々と巡り合えたし、色々な経験ができたと思います。今では、そういった関係で

親しくなった知人の選挙の応援演説などもしていますよ。

◆梨作りのお話を

ここの梨畑の面積は７００坪あり、私で４代目です。曽祖父、祖父、父そして私です。

定年までの４年間は梨を作りながら、会社に行くという生活でした。

第二の勤務先である富士工業の入社の年は、父の死が４月２９日で、入社日がまさに２日後の５月１日でした。会社勤務のかたわら、梨作りを面倒臭いなあと思うと、やはりその年の梨は１年間、できは良くなかったですねえ。

梨を覚えるのに１０年かかります。降水量の多少など天候に合わせることが第一で、自分の勘や判断が必要です。

現在は、１８種類の梨を順番に作っています。７月から１０月初め限定で、雨に強いもの、弱いものがあるからです。

「幸水」という梨の銘柄が売れるといっても、２週間以内が旬です。新種については、リスクが多く慣れるまでに５、６年はかかります。

梨の出来具合に「ふける」という言葉があります。完熟過ぎて、ふやけた感じの意味です。特に、水分の多い「豊水」は、そうなると、とても不味いです。採って１日経つと品質が変わるので、青めのものを採るようにしています。

そして、実の中に甘い蜜が集まったものを「蜜正」と言います。この蜜正の梨を見つけるのは難しい。まさか、売り物を半分に切って見るわけにはいきませんもんね。

採れたなしは、梨畑近くの小屋で販売していますが、お客さんの中には自転車で買いに来てくれたり、二ヶ領用水の散歩がてらに寄ってくれる人もいます。８月に「幸水」が４種類くらいできると、来たお客さんに試食してもらい、買う梨を決めてもらいます。７月は午前中で売り切れたりしますが８月になって「幸水」の時期になると、店は午後もやっています。

宅配もやっています。うちの梨は、お陰様でクチコミで広がっていて、毎年、沖縄から北海道まで６００箱ほど宅急便で送っています。

梨は比較的、誰でも作ることはできますが、売りさばくのが大変なのです。うちは２ヶ月で売りこなしています。

今、梨作りは１丁歩（３０００坪）あれば年収１０００万円の収入があり、生活できると言われています。しかし、それは直売での話で、市場を通したらダメですね。

多摩川梨は、元々、川崎大師のあたりで作られていた「長十郎」から広がり、二ヶ領用水の両側で梨の花が綺麗に咲き、北見方と諏訪まで続いたと言われています。坂戸は田んぼでした。日本通信工業に焼夷弾が落ちたとき、桃畑に落ちても、梨畑に落ちませんでした。

◆ともに歩んできた奥様の美代子さんから一言

この地域は1年ごとに変わってきましたね。農協に入っているので、人と話せて楽しいです。30年以上、梨の売り子役です（笑）。

最近感じるのは、人と人の挨拶がなくなっていくのが寂しいですね。

夫のことは、ずっと生真面目な人だと思ってました。若い頃は、何を聞いてもすぐ返事が返ってきませんでした。でも定年後、犬の散歩では、色々な方と立ち話しをしているらしく、帰ってくるのが遅いんですよ(笑)

後になってわかったのですが、私の話に返事をしなかったのは、「どうしたら、会社でヒット商品が出せるか」と1日中考えていたからだったようです。やはり、会社勤務のときは、大変だったようですね。

（平成２６年1月）